

2020年9月13日(日)
敬老祝福礼拝・聖霊降臨後第15主日
銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞

「主に望みをおく人は新たな力を得驚のように翼を張って上る。」イザヤ書40:30

主の祈り

使徒信条 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、
イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、
処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、
全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、
生ける者と死ねる者とを審きたまわん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、
身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。アーメン。

讚美歌 90番 こもかみのみくになれば

聖書 使徒言行録17章19～27節

17:19 そこで、彼らはパウロをアレオパゴスに連れて行き、こう言った。「あなたが説いているこの新しい教えがどんなものか、知らせてもらえないか。 17:20 奇妙なことをわたしたちに聞かせているが、それがどんな意味なのか知りたいのだ。」 17:21 すべてのアテネ人やそこに在留する外国人は、何か新しいことを話したり聞いたりすることだけで、時を過ごしていたのである。 17:22 パウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることを、わたしは認めます。 17:23 道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見てみると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。 17:24 世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。 17:25 また、何か足りないことでもあるかのように、人の手によって仕えてもらう必要もありません。すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。 17:26 神は、一人の人からすべての民族を造り出して、地上の至るところに住ませ、季節を決め、彼らの居住地の境界をお決めになりました。 17:27 これは、人に神を求めさせるためであり、また、彼らが探し求めさえすれば、神を見いだすことができるようにということなのです。実際、神はわたしたち一人一人から遠く離れてはおられません。

牧会祈祷

ご在天の父なる神さま。主の御名を崇め讚美いたします。敬老祝福礼拝の時をお迎えしました。主イエスの復活なされた日曜日の朝、礼拝をお捧げできます幸いに感謝いたします。私たちにこの1週間お与えくださった恵みに、私たちの現在までの歩みの上にお与えくださった祝福を感謝いたします。敬老祝福礼拝

の時を祝福し、お一人おひとりのご健康を支え、恵みを注ぎ、顧みてください。暑さの中、ウイルス対策の中、主にある平安のうちに健やかに歩めますように。どうか、世界が平和でありますよう、新型コロナウイルスの脅威が収束に向かいますよう、お導きください。家庭礼拝と会堂で捧げられる礼拝を聖霊で満たしてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

説教「神の命のご計画」

伝道師 藤田 由香里

本日は、敬老祝福礼拝としてお守りしております。皆様の上に祝福をお祈りいたします。

本日示されました箇所は、使徒言行録のパウロのアテネにおけるアレオパゴスの説教です。アテネというと、オリンピックです。歴史と時代を思わせる都市であると言ってもいいと思います。近代オリンピックの始まりが1896年アテネオリンピックから始まりました。古代におけるオリンピックはオリュンピアで始まりました、紀元前8世紀、預言者イザヤ・ヨナの時代です。この時ギリシャのポリスも始まりました。アテネは、世界の中でも最も古い都市の一つです。3400年以上の歴史を持っています、ダビデ王の時より昔からあるということです。このアテネ、ですが使徒パウロがこの第二伝道旅行で訪れた時代、まだ人口は500人程度でした。しかし、ソクラテス・プラトン・アリストテレスが活躍し、アカデメイア・リュケイオンが立ち、哲学・学問・芸術の栄えた都市でありました。使徒パウロは、このアテネにやってきます。壮麗なる神殿、拝まれるギリシャ神話の神々、エピクロス派哲学・ストア派哲学、パウロは様々な偶像礼拝、他の神々への礼拝を見て、憤慨します。ここにいる人々は、何か新しいことを、ただ新しいからそれゆえに知りたがっておりました。そのような彼らには、パウロの宣べ伝える主イエスの福音も、「今まで聞いたこともない」新しい教えに聞こえました。しかし、アテネの人々は、やはりパウロが論じる神の国の真理の福音を、ただ自分たちにとって新しいから知りたいという何か試みるようなそのような気持ちで、パウロをアレオパゴスに立たせたのです。知りたい知りたいと思いつつながら次から次へと論じ合い、たった一つの真理を知ることのできていない人々がいたのです。アレオパゴスは、アレスの丘、アレスというギリシャ神話の神が殺人を犯して神々に裁かれたことかき由来するようです。そこで、重要な裁判や会議が行われておりました。パウロはここで有名な説教をすることになります。

パウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあついであることを、わたしは認めます。道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見ると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。(使徒言行録17:22～23)

パウロは、この町の偶像礼拝の様子を見て、始めは憤慨いたしました。けれども、宣べ伝える人がいなければどうして知ることができようか、と聖書にあるように、自らが主イエスから託されたご命令をなさなければならぬ、伝えなければならぬこともよく知っていました。「知られざる神に」と献げられた祭壇がありました。知識と哲学の探求のうちに、無知の知からも考えられますが、私たちはまだ神様を知らないのだ、という告白をパウロは認めたのです。伝道のきっかけとなる点を見出しました。知られざる神に、この方がどなたであるか、あなたたちが今まで見たことも聞いたこともない良き知らせを、これから、伝えよう。私が受けた命を、伝えよう。

ユダヤ人伝道と異邦人伝道ですと、伝える福音は一つですが、語り始める事柄が異なります。ユダヤ人は、主イエスをお遣わしになった、旧約聖書に証されるお一人の神を知っているからです。異邦人伝道の

場合、まず造り主なる神、世界を、光を、命を、全てお造りになった神についてから伝える必要があります。

24節でパウロは、創り主について語り告げます。「この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主(17:24)」です。さらに、このお方は、「手で造られた宮にお住みにはな」らない、こと、「また、何か足りないかのように、人の手によって仕えられる必要も」ないことを続けて言います。パウロは、このお一人の神様は手で作られた宮にもお住みにはならない全能の方、自由な方だ、と言います。それに、神様は、何かご自身において不足しているかのように、人に手によって仕えられる必要もない、と言います。これらの神様についての考えは、そのものは、ギリシャ哲学の神についての考えにも通じるものです。パウロは、ここだけではなく、アレオパゴスの説教の中に、ギリシャの人々が親しんでいる哲学・知恵の言葉を盛り込んでいます。それほど彼らの側の言語に寄り添い、彼らに主イエスの神の国の福音を伝えたかったのです。

この創り主、「神ご自身がすべての人に、いのちと息と万物を与えておられるのですから。(17:25)」パウロは言いました。「いのちと息」とあります。これは、神様が始まりの人、アダムをお造りになった時に吹き込まれたのは「いのちの息」でありました。私たち人間をお創りになり、命を与え、呼吸をして、世界を歩いていくことができるようにされたのは、他でもなく、ただ、この父なる神である。パウロは言います。

そして、神様は、私たちに、命をお与えになり、地の表のあらゆる場所に住ませ、それぞれの一人一人に、決められた時代、時を、また決められた住まいの境をお定めになりました。私たちの、生まれた時代、生きた時、また生きてきた場所は、神様がお定めになりました。ここにあります「決められた時代」とは、「決められた時」とも訳せ「カイロス」というギリシャ語です。カイロスは、コヘレト、伝道者の書3章11節「神のなさることは全て時に適って美しい」の「時」と同じ言葉が用いられています。神様が、私たちに、ご自身の御心に従って、生まれた日、生きる時代をお定めになられたのです。それは「美しい」と言われる業に属しています。

神がお定めになる、「ホリゾー」は、語源が「全て」です。全能なる神のお定めになった確かなる時を意味しています。そして、神様がお定めになったその時と場所というのは、全て「あなたたちが神を求めようになるため」なのだ、パウロは言うのです。

アテネの多くの人々は、様々な文化・芸術・知識・哲学に囲まれ、常に何か知らない新しいことを知りた、そのように生きておりました。あらゆる新しい情報に囲まれ、次なる新しいインテリジェンスを求める。新しいものが見つかれば、今あるものは廢れる。そのような意味で、飽和社会でありました。そこにはギリシャの神々がいて、多くの人がお一人の真実な神を知らずに、偶像を拝んでいたのです。しかし、ここに一人の神の国の伝道者が立ち、永遠なる主イエスの福音について語り告げたのです。「求めるならば、あなた方が神を見出すこともある。」パウロは言いました。現に、「ある人々は彼につき従い、信仰に入った(17:34)」とあります。「アレオパゴスの裁判官ディオヌシオ」「ダマリスという名の女の人」などです。神は無人格な方ではありません。神は人格を持って私たちと交わりをなさいます。神は熱情の神です。偶像礼拝には妬みを起こされる、聖書に記されます。神はまた、慈しみと憐れみによって思い直されることがあります。

時をお定めになった神様は、主イエス・キリストを十字架へと引き渡されることをご計画として定めておられました。主イエスは、定められたご計画により引き渡されました(使徒言行録2:23)。主イエスは、生きているものと死んだものとの審判者として定められておられます(使徒言行録10:42)。

神は、この「先にお選びになった一人の方によって、この世を正しく裁く日をお決めになりました(使徒言行録17:31)。この定められた日は、主イエスの再臨の時です。私たちにはいつかはわかりません。「主を迎えて。主は来られる、地を裁くために。主は世界を正しく裁き／諸国の民を公平に裁かれる。(詩編98:9)」

主イエスはこの裁きの時を、私たちの喜びのときとされようと、ご自分を十字架におさげになったのです。私たちの復活の時とされるため、主イエスは、復活なさいました。私たちに命と息をお与えになるため、私たちを造られた主は、私たちに「永遠の」命と息をお与えになるために、とこしえに神を喜び祝うために、おいでくださったのです。

神は私たち一人ひとりから遠く離れてはおられません。

祈りましょう。

祈 禱 ご在天の父なる神様、パウロはあなたの命を受け、あなたの命を伝道しました。伝道は教会の命です。あなたは私たち一人一人に、命と息をお与えになりました。時と場所とをお与えになって来られました。あなたは私たちがあなたを求めようと願ってくださいましたことを感謝いたします。主イエスが永遠の命をお与えくださるためのあなたのご計画のうちに私たちを置いてくださり感謝いたします。主がやがて来られる時を思います、主を愛し、隣人を愛し、あなたを喜び祝って、つき従い歩むものとなさせてください。主イエス・キリストの御名によって、アーメン。

祈 禱(各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 杖友の兄弟姉妹の上に主の祝福が豊かにありますように
家庭礼拝をお捧げしている兄弟姉妹のために
教会員の各家庭の上に主の恵みが注ぎますように
日本伝道を覚えて

讃美歌 512番 わがたましいのしたいまつる

献 金

頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン